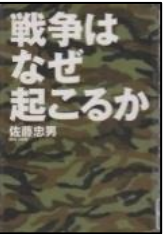
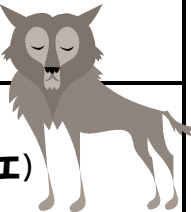


『いじめレジスタンス』 黒野伸一／著 理論社（YFク） ぼくは、ツッパリ（今でいう不良）のクラスメイトに 対する、理不尽なやり方に耐えられなくなっていた。 そんなある日、ついに、ぼくは、ほん のちょっとだけ、彼らにレジスタンス （抵抗）を試みるのだった。ぼくが、 少年時代を過ごした昭和40年代を 舞台にした物語。 	『ファイト！木津西高校生徒会』 本田有明／著 河出書房新社（YFホ） 木津西高校はちょっと問題のある高校だ。そんな高校 に初の特待生として入学した本城一輝。不本意なが ら入学した高校ではあったが、「チェン ジ&チャージ」というスローガンをか かげ、生徒会長へ立候補する。 	『木工少女』 濱野京子／著 講談社（913ハ） 東京へ戻る前に、峯川村にいた証を残したい。そう思 った美楽は、父親の仕事の都合で、小学6年生の1年 間をこの村で過ごしていた。村へ来たばかりのころ は、不満ばかり口にしていたのに、 何が美楽をこう思わせるまでに なったのだろうか？ 	『白をつなぐ』 まはら三桃／著 小学館（YFマ） 毎年1月になると、広島で都道府県対抗男子駅伝が 開かれる。それに選ばれたのは福岡県代表の中学生か ら社会人までのメンバー7人。彼らは、それぞれの思 いを「白」という色にたくし、たすきをつなげてい く。 
『西の魔女が死んだ』 梨木香歩／著 新潮社（YBFナ） 「西の魔女が死んだ」との知らせを聞いたまいは、魔 女と過ごした日々を思い出していく。「西の魔女」と は、彼女のおばあちゃんのこと。2年前、中学に入っ たばかりのころ、学校になじめず、しばらく学校を休 んでいた時期に、一緒に過ごしてい たのが、このおばあちゃんだった。 	『アナザー修学旅行』 有沢佳映／著 講談社（YFア） あと少しで楽しみにしていた修学旅行というある日。 佐和子はよりによって、足を骨折してしまい、行けな くってしまう。彼女の他にも行けなかったメンバー は、居残り組として代替授業を受けることになる。し かし、そこに集っていたのは、これまで話したことも ない人たちだった。この面々と過ごす三日間 は、どんなことになるのだろうか。 	『モモ』 ミヒヤエル・エンテ／著 岩波書店（943エ） 町はずれにある円形劇場の廃墟に、モモという女の子が 住みつきます。はじめは近所の人たちに警戒されていま したが、やがて、その人たちと友情が芽生えます。そし て、この子に話を聞いてもらった誰もが幸せな気持ちに なるのです。しかし、しばらくすると話をしようとする 人がいなくなります。それには、どうも時間貯蓄銀と いうものが関係しているようなのですが…。 	『戦争はなぜ起こるか』 佐藤忠男／著 ポプラ社（319セ） 日本は、太平洋戦争が終わってから戦争は起きていま せん。しかし世界では、たくさんの戦争やテロが起き ています。悲惨な戦争は、どうしてこ んなに繰り返されるのでしょうか？ いくつかの戦争を取り上げながら、そ れらが起こった原因を探っていきます。 
『すし食いねえ』 吉橋通夫／作 講談社（913ヨ） 豆吉は、江戸の両国にある屋台「与兵衛すし」のひ とり息子。ある日、豆吉が店番をして いると、追っ手に追われている若侍が やってくる。この侍が追われているワ ケを知った豆吉は、ひとはだ脱ぎ、力 を貸すことになる。 	『マザーランドの月』 サリー・ガードナー／著 小学館（Y933マ） マザーランドという国で暮らしているスタンディッシ ュは、この国によって両親や親友を奪 われてしまう。やがて彼は、この国が ついている大きな嘘に気づき、それを 暴こうと、命がけの行動に出る。 	『大きらいなやつがいる君のための リベンジマニュアル』 豊島ミホ／著 岩波書店（Y914ト） あなたには“大きらいなやつ”がいま すか？ 「いる！」と答えたあなた のために、著者が“大きらいなやつ”に リベンジ（？）する方法を教えます。 	『動物の死は、かなしい？ 元動物園飼育係が伝える命のはなし』 あべ弘士／著 河出書房新社（Y480ド） 現在、絵本作家として活躍している著者は、以前、動 物園の飼育係として働いていました。そこでたくさん の動物の死をみてきた著者は、それをどう受け止め、 向き合ってきたのでしょうか。動物たちの命について 語った本です。 
『皿と紙ひこうき』 石井睦美／著 講談社（YFイ） 由香が住んでいるのは、「皿山」と呼ばれる、陶芸を 家業としている家が集まった山間の集落だ。この集落 は何百年ものあいだ、陶芸を家業として 受け継ぎ、この後もそれは変わることは ない。そんな変わらないものに囲まれて 育った由香だが、高校1年のとき、無口 でかっこいい転校生がやってきて…。 	『ペナンブラ氏の24時間書店』 ロビン・スローン／著 東京創元社（Y933ペ） クレイは、ペナンブラという老人がやっている24時 間営業の書店に勤めている。この店の本を読むことは 禁じられていたのだが、どんなことが書いてあるのか 気になり、中を見てしまう。そして、その中が暗号で 書かれていることを知った彼は、 その謎をコンピュータを使い解き 明かす。だがその直後、ペナンブ ラが姿を消してしまった。 	『人にはたくさんの土地がいるか』 レフ・トルストイ／著 あすなろ書房（Y983ヒ） 「土地さえじゅうぶんにあれば、こわいものはなにも ない」と言ったパホーム。そんな彼ののもとに、耳寄 りな話が舞い込むようになり、土地をどんどん手に入れ ていく。やがて、今よりも広大な土地 を、自分のものにできるかもしれ ないという話を聞きつけたパホー ムは、その話にまんまと飛びつい てしまう。 	『エゾオオカミ物語』 あべ弘士／作 講談社（Eア／エ） たった100年前まで、北海道にいたエゾオオカミた ち。今では姿をみることはできない。なぜエゾオオカ ミは絶滅してしまったのか？ 『しろいうさぎとくろいうさぎ』 ガース・ウィリアムズ／ぶん・え まつおか きょうこ／やく 福音館書店（YEウ） 

